

研究レポート No.886 岩手県農業研究センター

平成 29 年 8 月の低温・寡照条件下における、「ひとめぼれ」の登熟及び玄米品質の推移を解析しました

【1 成果の概要】

平成 29 年のように、登熟期間が低温日照不足でも、刈取りは黄化籾割合で判断します。

日平均積算気温 1100℃では、黄化籾割合は 80%に到達し、青未熟粒は大きく減少し、整粒歩合は 85%前後まで高まりました。

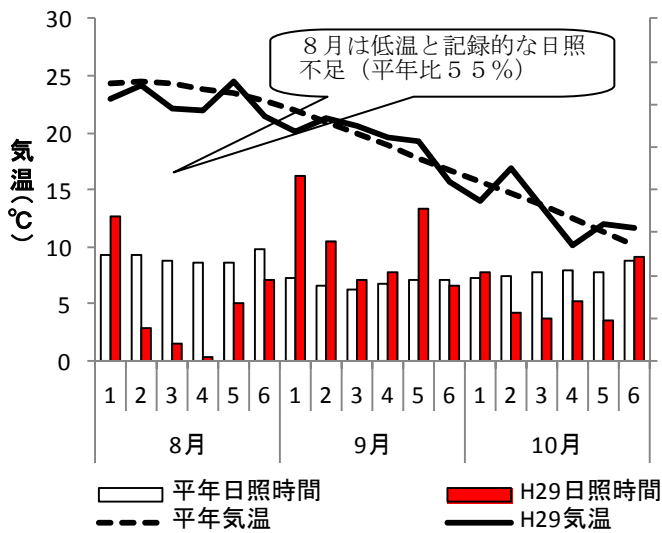


図1 登熟期間中の半月別気象データ
(アメダス北上、平年は1981~2010年の平均)

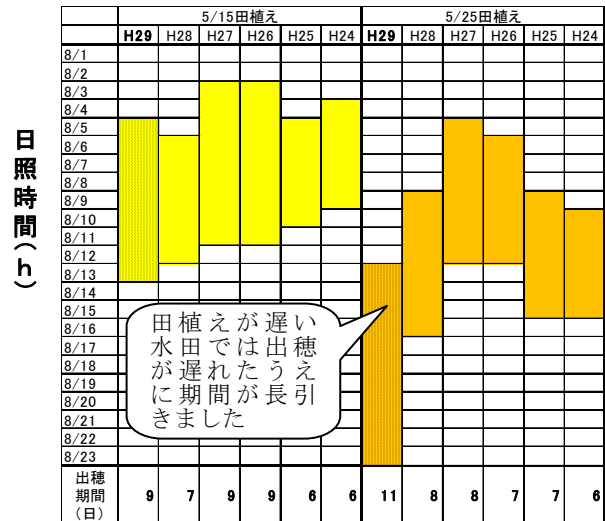


図2 出穂期間の年次比較

表1 刈取り時期別の黄化籾割合と玄米品質 (1.9mm篩)

出穂期	刈取時期 (°C) ※	刈り上げ日	黄化籾割合 (%)	整粒 (%)	青未熟粒 (%)
8月6日	900	9/15	45.0	80.4	7.9
	1000	9/21	61.2	82.0	6.5
	1100	9/27	81.8	85.9	3.2
	1200	10/4	86.6	80.9	2.8
	1300	10/10	92.2	81.7	1.7
8月15日	900	9/27	51.0	75.3	17.8
	1000	10/4	69.6	78.6	10.3
	1100	10/10	84.0	82.5	4.4
	1200	10/17	86.3	83.8	3.5
8月22日	1300	10/27	87.9	83.4	3.0
	900	10/8	37.2	69.4	17.3
	1000	10/16	64.4	78.5	9.4
	1100	10/24	81.7	84.2	1.6
	1200	11/1	83.6	80.5	1.6
	1300	11/8	90.3	80.7	1.2

※刈取時期 (°C) は出穂後の日平均積算気温。

【2 留意事項】

農研セ (北上) のデータを解析しました。

本年は、霜が遅く品質低下が少ないと推察されますが、登熟条件確保のために適期移植に努めましょう。

担当研究室 技術部 作物研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1 TEL. 0197-68-4417 FAX. 0197-71-1083